



## 申8号

### 「首都圏における拠点配置体制の一部見直しについて」に関する申し入れ **団体交渉を行う!**

中央本部は、7月30日に会社から「首都圏における拠点配置体制の一部見直しについて」の説明を受け、関係する分会と議論を積み上げてきました。首都圏における拠点配置体制は、ダウンタイム縮小のニーズが社会的に高まるなか労使議論を行い、安全を大前提に異常時の早期復旧をめざすために実施してきました。今回示された内容は、職場の検証議論で出された意見と一致している内容もありますが、一方で、不安や疑問の声が多く出されている現実を団体交渉において訴え議論してきました。

第1項 首都圏における拠点配置体制の一部見直しに至るまでの経緯および目的を明らかにすること。

- 組合 ■ 首都圏における拠点配置体制の一部見直しに至るまでの経緯とは何か。  
■ 今施策でのコストダウンは、どの程度見込んでいるのか。

#### 会社(設備)

- 輸送障害影響度と出勤実績を見た時、頻度は少なくなっている。
- 出勤実績の99.7%は空振りに終わっている。

#### 会社(電気)

- 2006年以降、設備の強化には、かなり力を入れている。信号のLED化も進んでいる。輸送障害の数は減っている。

### 確認

安全を守ることについては変わるものではない。設備を強化する施策を実施したことで、輸送障害を減少させてきた。見直し前と同等の輸送品質を守ることを前提に、生産性向上とコストダウンを実施する。

第2項 首都圏における拠点配置体制の成果と課題を明らかにすること。

#### 会社(設備)

【成果】輸送障害Aの発生割合が約50%、総遅延時分は、2分の1から4分の1となっていることからしても、設備強化されてきたと言える。また、社員が駆けつける体制を総合力で実施してきた。

#### 会社(電気)

【成果】設備および電源強化を、かなりのボリュームで行ってきた。各種訓練、競技会などの開催や異常時対応マニュアルの整備など行い、ハード・ソフト両面で実施してきた。

#### 会社(共通)

【課題】当時は、最適だと思って実施してきたが、今振り返ると、出勤実績が少ない箇所や出勤しても空振りというものが見えてきた。パートナー会社が、ずっと待機していることが多い現状もあり、それが課題である。また、電気の課題は、設備の老朽取替を着実にやっていくことである。

### 確認

輸送影響度、出勤実績の大幅な減少は、着実な設備強化を実施してきたこと。異常時対応は、様々な訓練・教育等を実施してきた。社員の努力によって成し遂げられたことが成果である。

その2に続く